

JOMF 派遣医師便り (2013. 2)

◆マニラ◆

——素晴らしい医師たちに巡り会いました——

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

いつも医師の立場で患者さんと向き合っている私ですが、今回は自分が患者という立場になった体験談をさせていただきます。

患者さん思いの優秀な医師たちに巡り会いました。

普段受診していただいている“患者さんの苦痛”に触れることができました。これからも謙虚な気持ちを忘れずに、患者さんの訴えや苦痛を理解し、感じながら診療を行っていきたいと思っています。

私の症状は、昨年11月から、持続的な心窩部痛(みぞおちの痛み)で起こり始めました。一か月余り経っても症状は改善せず、さらに悪化し、一日中持続する痛みになってきました。私事でもいつもアドバイスをいただいていた、大変お世話になっているDr. Eに相談させていただきました。精査のため上部消化管内視鏡検査を受けることになり、検査はケソン市にあるUnited Doctors Medical Centerで受けました。

内視鏡検査当日、担当のDr. Sから症状経過、既往、アレルギーの有無、家族歴などを聞かれました。また、内視鏡検査を受けるにあたり「局所麻酔(喉にのみ局所麻酔をして意識がある状態で検査をする)」で行うか、「全身麻酔」を希望するかの質問がありました。私は、意識を保ちながら行う局所麻酔下での検査を希望しました。

Dr. Sは非常に優しく、患者(私)に不安を与えないように、慎重に、しかし素早く的確に内視鏡検査を進めていきました。検査中の吐き気症状や苦痛を予想するかのよう、前もって声をかけてくれながら、現在どの部位を観察しているのかなどを説明しながら、患者の身になりながら検査を進めてくれました。とても安心して検査を受けることができました。

食道、胃、十二指腸をくまなく検査し、胃の細胞の生検も施行しました。検査直後に、ビデオを見ながら検査画像を丁寧に説明してくれました。咽頭—食道—胃—十二指腸の病態を説明してくれました。

胃の粘膜全体が炎症で赤く腫れていました。広範囲の胃炎でした。Helicobacter pylori菌の有無も同時に検査してもらいましたが幸い陰性でした。

今回、自分が上部消化管疾患という患者になったことで、患者さんの苦痛を肌で感じる、

という貴重な経験をいたしました。

適切なアドバイスや対応して下さった Dr. E、Dr. S という先生方のお陰で“医師になろうと志した当初の思い”を蘇らせることができました。

これからも謙虚な気持ちを忘れずに、患者さんの苦痛を感じながら診療に携わっていきたいと思っています。

心暖かく対応をして下さった Dr. E や内視鏡検査をして下さった Dr. S、病院スタッフの方々に心より感謝いたします。

皆様お体大切にしてください。